

登録コード	E4670900	開講年度	2026				
授業科目	技術科指導法基礎				担当教員	村松 浩幸	
英文授業名	Introduction to Teaching Technology				副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限	対象学生	
講義室	教育W505講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				技術科教育に関する使命感や倫理観を持って指導ができるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				技術科教育に関する基礎的な知識・技能を獲得し、基本的な技術科教育指導ができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	基礎的な内容や理論を学んだ後に、グループ演習により、学習指導案作成、模擬授業等、各種課題に取り組む。グループ演習の成果発表は適宜行い、相互評価することで学習の深化をはかる。						
(5)授業計画	第1回 : 技術科教育の概要 第2回 : 技術教育・STEAM教育と子どもの発達 第3回 : 自然科学および技術の違いと学習指導 第4回 : 過去の技術教科書分析 第5回 : 学習指導要領の変遷と技術教育の目的 第6回 : 技術科の教育課程の基本 第7回 : 3年間の教育課程立案演習 情報機器の活用を含む 第8回 : 技術教育における学習評価の考え方 第9回 : 評価規準の立案演習 情報機器の活用を含む 第10回 : 技術科の授業構成と学習指導案の作成 情報機器の活用を含む 第11回 : 模擬授業の学習指導案検討と準備 情報機器の活用を含む 第12回 : 模擬授業の実施と相互評価 情報機器の活用を含む 第13回 : 技術の学びとSTEAM教育 第14回 : 海外の技術教育の状況とこれからの技術教育の方向性（含む授業アンケート） 定期試験						
(6)成績評価の方法	試験（40％）、課題の取り組みと成果（30％）、レポート（30％）で総合して評価。 ・課題およびレポートについては、課題毎に書式、内容等の評価項目を設定し、5段階でポイント化した総得点を演習課題評価とする。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可。						
(7)成績評価の基準	課題およびレポートに対して、概要が適切に説明されている。 基礎的事項が科学的理論に基づいて説明されている。 理論と実際とが比較検討されている。 理論と実際との比較から問題点と課題が把握できている。 自分の見解を科学的理論に基づいて考察されている。 ・ ~ 項目までができていれば「水準にある」 ・ ~ 項目までができていれば「やや上にある」 ・ ~ 項目までができていれば「かなり上にある」 ・ ~ 項目までができていれば「卓越している」						
(8)事前事後学習の内容	・演習により時間を割けるように、Google Classroom上に事前学習課題（小テスト）や参考資料を提示しておく。なお、60分以上の事前学習が必要である。事後学習については、課題の進み具合に応じて、適宜指示をする。						
(9)履修上の注意	・課題の取り組みについては、授業外にも適宜相談すること。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	・研究室 木曜日 13:00～14:00 238-4175, muramatu@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	技術教育概論，日本産業技術教育学会技術教育部分科会，九州大学出版会（2018）						
【参考文献】	技術・家庭科技術分野教科書（検定済み教科書）東京書籍						